

編集後記

■編集委員 (50 音順)

伊熊健一郎
北野正剛

岩崎昭憲
清水一雄

小澤壮治
徳村弘実

北島政樹
東原英二

<医療事故と内視鏡技術認定制度・ガイドライン>

医療事故の原因は多岐にわたるが、手術に関連した医療事故で、術者が深く関与する原因として考えられる点は、(1) 術前診断、(2) 選択した術式の適応、(3) 手術について患者リスクの評価、(4) 手技の実行(術者の経験、指導者の役割など)、(5) 事故時の緊急処置、(6) 事故後患者救済に対する対処、などの過程の誤りが考えられる。

チーム医療として対処しなければならないもので、事故の原因になりうるものには、(1) 患者取り違え、部位の誤り、(2) 周辺機器・資材の誤操作、(3) 異型輸血、(4) 麻酔医の誤操作、(6) 体内異物遺残、(7) 深部静脈血栓・肺梗塞など、が考えられる。

事故の原因ではないが、問われることとして(1) 説明と同意、(2) 事故後の患者・家族に対する説明、(3) 関係部署や機関への報告などがあげられる。

これらの多くの事故原因となりうる点のうち、技術認定制度が医療事故の低減に貢献できる点は、「(4) 手技の実行」に関する部分である。技術認定制度が及ぼすであろう影響は、(ア) 技術認定を取得しようとする努力が生まれ、標準的手技に関心が生まれ、その普及が期待される、(イ) 施設内での教育、学会や企業が行う教育コースが重視され盛んになる、などがあげられる。しかし、技術認定制度で推奨するのは標準的技術(手技)であって、術式ではない点を強調したい。

またガイドラインの果たす役割は、「(2) 選択した術式の適応」の説明をより客観的に示す効果が期待できる。選択した術式について(ア) 適応はあるのか、(イ) 標準的治療法か、(ウ) その他の治療法や術式の可能性はどうなのか、などが医療者以外にも明示されるという点が利点としてあげられる。

技術認定制度が個々の医師の利害に関係するので、医師の興味を引いているが、ガイドラインは医師と患者の治療法選択のガイド的役割を果たすという重要な意義を有している点の認識が必要である。しかし、技術認定制度やガイドラインを整えても、その他の多くの医療事故の原因を考えると、手術に関する医療事故の低減は非常に困難な仕事であると思わざるを得ない。

(東原英二)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第10巻 第4号) 2005年8月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1部定価: 会員には毎号送付されます。その他については、1部定価 2,835 円(本体 2,700 円+税 5%)となります。

2005 年 年ぎめ予約購読料: 16,500 円(税込)(配送料: 医学書院負担)

編集・発行: 日本内視鏡外科学会(代表: 北島政樹)

〒162-0802 東京都新宿区改代町 26-1-B03 有限責任中間法人学会支援機構内

(☎ 03-5206-6007 Fax 03-5206-6008 担当: 佐々木) <http://www.jses.org>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 26-1-B03 Kaidaicho Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0802, Japan

©2005, Printed in Japan

発 売: (株)医学書院(代表: 金原 優)(本誌担当: 蔵田, 中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文栄社 ☎ 03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意下さい。